



研修初日(10.3)

①  
いよいよ2ヶ月ぶりの後期研修が始まります。



②  
開講式では中澤文彦利根沼田森林管理署長より挨拶が行われました。



③  
恒例の一人一言挨拶です。大部分の研修生は2ヶ月ぶりの再会となります。  
  
この間の各人の取り組みや宿題準備の苦労話などが出され、全員が言葉を発するうちに雰囲気はほぐれていくようです。



④  
早速研修のスタートです。後期研修も内容盛りだくさん！演習や発表も多く、最初からグループに分かれ講義が開始されます。



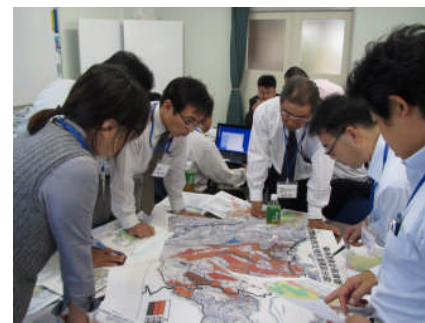
⑤  
まずは、大貴講師による前期研修の内容をおさらいです。引き続き前半の3日間をかけて行う「森林整備企画演習」の意義や演習の流れを説明します。



⑥  
「森林整備企画演習」では、前期研修での様々な内容も踏まえた上で、路網整備等効率的な施業構想の策定を通して地域林業の将来ビジョンの考え方についての知見等を養うことをねらいとします。



⑦  
初日は机上にて、研修用に仮想した1,000HA程度の対象森林において、調査簿・図面等の情報をもとに、10年間の具体の森林整備箇所、林業専用道の位置、線形等を検討します。



⑧  
与えられた条件・情報は同じですが、出てくる意見は、研修生自身の地域性なども反映されて、各班ともにバラエティに富んだ様々な観点が満載です。



研修2日目(10.4)

①  
2日目午前中は、初日に机上で検討した箇所を、実際に現地で確認します。地理的・時間的制約から、つぶさに見て回ることはできませんが、対象地を遠望したり、既存の林道の分岐点を参考にするなどで、自分たちが検討した林業専用道の線形や作業システムについて、再検討や改善を図るための現地踏査の演習です。



②  
県道に近い場所にある中間土場において、販売戦略を考える上での「土場」の重要性や、最新のトレンドをつかんだ販売方法について、関東森林管理局 販売課の金子講師、林野庁大貴講師より解説を行います。研修生からは、土場の規模や販売ロット、流通関連等についての質問が出されました。



③ 対象地の中心を流れる本谷に沿った林道上から、上流を遠望し、全体の大まかな地形を読み取りつつ、林業専用道と森林作業道の組み合わせ、車両系や架線系といった作業システムについて班ごとに現地検討をしています。



④ 机上では読み取ることができない現地の状況を実際の現場で目で見て確認するという行為の重要性を改めて認識できます。



⑤ 対象地の上端に近いところから、下方を遠望します。下から見上げた状況と、上からの印象を確認して、全体像を把握できたか各班で取りまとめています。



⑥ お昼過ぎに現場から室内に戻り、ここで大貫講師から、この後の演習にも生かすべく、販売に関する情報提供のミニ講義を行いました。



⑦ ここからは、実際に見てきた現地の状況を踏まえて、具体的に林業専用道の線形を修正しつつ固めていくと府同時に、10年間の森林施業の箇所付けや順序を検討し、経費と収益を計算するエクセルシートの入力を行い、森林施業の構想を立てていきます。



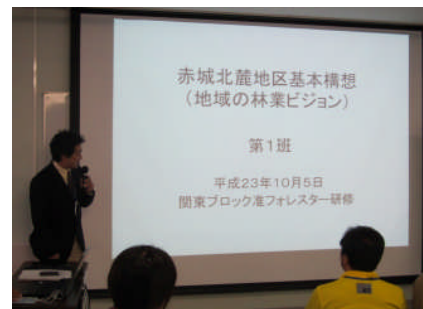
⑧ この日は、翌日の発表に向けた熱心な議論が、終了時刻を過ぎても続けられました。

研修3日目(10.5)



① 3日目朝一番、最終調整をして発表に備えます。

各班ごとに共同作業を行う中で、県や組織が違う者同士が日ごとに打ち解けて、チームの結束も高まり和やかな雰囲気です。

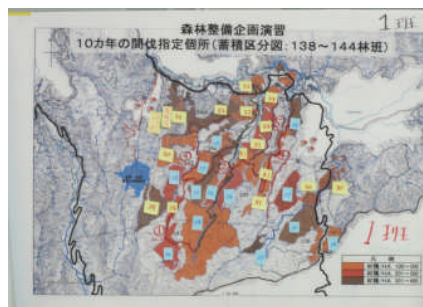


② 「森林整備企画演習」の総まとめとして、各班より演習成果を発表していきます。

パワーポイントを用いて、林業専用道の作設・施業の計画・販売戦略や長期的な地域のビジョンをそれぞれの工夫を凝らしてまとめていきます。



③ 発表では、地域の首長にプレゼンするという設定のもと、限られた時間の中でいかに相手に伝えられるか、ということをお念頭におき、グラフや文字の見やすさ、キャッチフレーズのインパクトなど様々な工夫が見られます。



④ 林業専用道の配置・線形や施業の箇所・順序、作業システムごとの区域分けなどを図面上で表現して説明します。



⑤ 各班の発表後に、班員からの補足、他班からの質問や確認を行い、講師からの講評や、アドバイス等を行い、今後に役立つ視点や知見を全員で共有します。

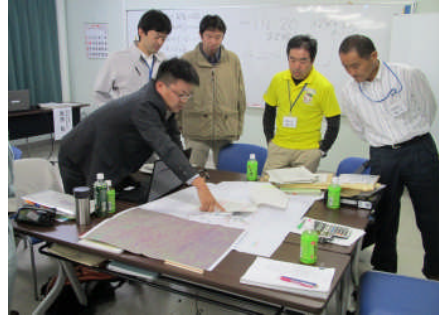


⑥ 聞き手の皆さんも、メモをとったり、補足や質問を考えたりと、全員参加・双方向の研修は何かと忙しいものです。

この発表をもって、初日から足掛け3日間かけて行った「森林整備企画演習」は終了です。



⑦ さあ次は、息つく間もなく次の演習「市町村森林整備計画(案)によるワークショップ」に突入です。



⑧ この演習は、研修生各人事前に用意していただいた演習用の市町村森林整備計画(案)をもとに、班内で意見交換を行うワークショップです。

それぞれの地域特有の森林林業を取り巻く背景や地形、気候、樹種の特徴や生産・販売面の状況、木材需要や流通の特性などを説明しつつ、それらに応じたゾーニングや施業の構想をどのように考えているか、工夫した点や課題は何か、等々をお互いに出し合います。



⑨ 班ごとのワークショップののち、各班から二つの事例を発表していただきました。



⑩ それぞれの特色ある計画案と、苦労した点、工夫などの共有は、各地位での今後の実際の作業に役立つものと思われる。

研修3日目は、二つの演習発表が行われる、とても忙しい一日でした。皆さまお疲れ様でした。

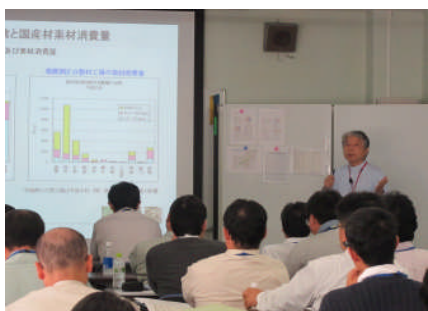
研修4日目(10.6)



① 4日目の朝、7名の森林施業プランナーが合流しました。残りの2日間、主に森林経営計画について進フォレスター研修生と共に演習等を通して学びます。



② この日最初の講義は、再生プランを進める上でも、非常に重要なポイントとなる「森林施業における労働安全」について、林災防東京支部の上野徳也講師より、労働災害の現状と対策、リスクアセスメント等について、豊富な事例と教訓を交えた講義を受けます。



③ 続いて、「木材の流通・販売」に係る講義です。講師の株式会社 山田事務所 山田稔氏のお話は、木材流通現場の具体的な最新、きわめて現実的な内容であり、川上から川下までの繋がりを考える上でとても勉強になります。研修生にとって、大変刺激的な講義内容です。



④ 午後からは、いよいよ森林経営計画に入っていきます。まずは林野庁の岩田講師より「森林経営計画の概要」について、講義を受けます。制度的な事項については、今後各地域に帰ってからの作業に関連するため、皆さん注意深く確認しながら受講しています。



⑤  
4日目の最終コマは、「森林経営計画作成演習」です。事前に研修生同士の相談により準備された計画案に対して、森林施業プランナーと准フォレスターとしての議論を行います。



⑥  
森林施業プランナーを交えての討議は、これまでの演習とはまた違った雰囲気です。  
プランナーの提案に対してのフォレスターとしてのアドバイスのポイントなど、森林経営計画の策定について、お互いの立場からの視点を疑念的体験を通して養います。



研修最終日(10.7)

①  
いよいよ研修最終日、藤野プロセスマネージャーより本日のスケジュールを説明します。



②  
昨日、各班で話し合った森林経営計画について、発表と意見交換を行います。



③  
各地域の特色ある森林経営計画に、それぞれ学ぶところがあります。各班からは、計画案の作成に当たり苦労や工夫した点、准フォレスターとしてアドバイスしたことや今後に向けた留意点などを出し合い、全員で共有します。



④  
各班の発表に対して、講師からの講評と補足説明等を行います。



⑤  
発表後は、大貫講師からコンテナ苗の取り組みについての情報提供や、これまでのふりかえりシートにあげられた質問に対し、可能な限りの回答を最後にまとめて行いました。



⑥  
准フォレスター研修生にとっては、前後期10日間、プランナーにとっては2日間の締めくくりとして、最後のコマではそれぞれの立場からこの研修をふりかえり、今後必要な取組みの整理や、挑戦すべき事項を考え、これらも踏まえた各々の目指すべき理想像も含めて一人一人から発表していただきました。



⑦  
研修所で行う、前後期にわたる研修もこれで終了です。このあとに通信研修と集合研修を経て、今年度のカリキュラムは完成します。皆様、本当にお疲れ様でした！



⑧ おまけ  
時間の許す希望者限定で、終了後にも大貫講師によるおまけの講義が行われました。皆さんお腹もすいているだろうし、その熱心な姿に感動します。